

平成30年度 京都府立木津高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営計画)
<p>1 地域との連携を深めた特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>2 教育活動をととして、規律ある行動とコミュニケーション能力の向上を図り、自分を大切に、他者を思いやる心を育てる。</p> <p>3 生き生きとした学習活動の可視化に努め、地域から信頼される学校づくりを推し進める。</p> <p>4 自己理解を深めるとともに、目的意識を高めさせ、自らの進路を主体的に切り開く能力や責任ある行動力を身につけさせる。</p> <p>5 学習環境の整備や教職員の資質向上に努め、学校の評価をもとに、信頼される学校づくりを推し進める。</p>	<p>平成29年度は前年度の成果と課題を踏まえ教職員が一丸となって本校の教育活動を前進させることができた。</p> <p>1 広報等について 本校の教育活動を正しく、広く理解してもらうための広報活動を積極的かつ効果的に行うことができた。また新たに中学校教員向け説明会や平日夜の保護者説明会、工夫ある学校案内等も制作した。今後さらに魅力ある広報活動を展開し、中学生に「第一希望」として選ばれる学校づくりを進めていきたい。</p> <p>2 進路指導について 平成30年度新たに新設される「特進エリア」の進路指導体制を確立させることをととして、組織的な進路体制の構築が進んだ。また、就職希望者への指導の徹底により、内定率が向上し、加えて最後まで粘り強い指導を行えた。</p> <p>3 地域連携等について 地域との連携については、専門学科の活動や連携コースでの取組により確実に充実・発展してきている。今後は、地域貢献から「地域参画」にシフトを変え、地域の小・中学校や地域自治体とさらに連携することが課題である。</p> <p>4 規範意識に関する取組について 生徒指導部を中心に、身だしなみ指導を強化して、帰属意識の定着を図ることができた。今後、教科指導を粘り強く行い、生徒の学力向上を図ると共に原留・中退等を減少させ、生き生きと充実した高校生活の充実を目指したい。また、部活動、清掃活動の充実等を行うことをとし、規範意識の確立や帰属意識をより高めるための取組等を進めていくことが求められる。</p>	<p>1 創立117年を迎える「風かほる伝統校」木津高校の新たなスタートと位置づけた平成30年度、今後10年を見据えた普通科のエリア・コースを発展的に見直し、体系的な学習指導・進路指導を推進する特進エリアをスタートさせた。引き続きスタンダードエリアにおいて、対話的で深い学びを体験できるコースを進化させ、新学習指導要領の趣旨に対応させたコースの創造を図る。専門学科2学科については、グローバルGAPとエシカルビジネスをキーワードに、本校ならではの生産から消費までを視野に入れた取組の発展・深化を推進する。</p> <p>2 生徒の希望進路の実現を第1に、入学から卒業までを体系的に捉え、一貫した指導の下、学力の向上を図る。進学・就職共に強い進路指導体制の充実を図るとともに、粘り強い学習指導を通して原留・中退・転学等を限りなく0に近づける指導を徹底する。</p> <p>3 部活動の加入率70%以上を目指し、部活動のさらなる活性化を図る。また、学校行事に積極的、主体的に取り組むよう常に工夫・改善に努め、学校生活の一層の充実を図るとともに、生徒・保護者の学校満足度のさらなる向上を目指す。</p> <p>4 清掃活動を自己研鑽の中心に位置づけ、心身の健全な発達と母校を愛し、誇りの持てる高校生活の醸成を目指す。また、あいさつを励行し、ボランティア活動の一層の推進や地域連携、地域行事への積極的な参加等をととして、117年の歴史を誇る本校の建学の精神である地域に愛される、地域の高校としての存在感を高める。</p> <p>5 引き続き工夫を凝らした広報活動を積極的に展開し、本校の特色ある教育活動を正しく、広く理解していただくとともに、積極的に授業、学校行事を公開し、地域に開かれた学校としての取組を推進する。</p> <p>6 自他を大切に人権感覚の育成に重点を置くとともに、身だしなみ違反や遅刻の根絶等、基本的な生活習慣を確立する。また、全員が安心して安全な高校生活をおくれるよう規範意識の確立と授業規律を徹底し、教育環境を整備する。</p>

分野	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
教務部	修学保障	原級留置・中途退学者数を限りなくゼロに近づける。	欠席過多生徒・成績不振の生徒に対する指導について学年部のみでなく、各教科担当との連携を密にし、昨年度人数より減少を目指す。各学期末において、成績会議を開催し、各生徒の成績状況の情報共有を図るとともに、成績不振生徒に対する丁寧な学習指導に力を入れる。課題を抱える生徒への面談やアプローチの仕方について、より効果的な実施の仕方、時期を検討する。	3 3 3	3	<p>・担当の先生方や学年の先生方のご協力により、追認の合格率は、5月追認は、昨年度と比べれば2学年は上昇し、3学年においては横ばいであった。1月追認においては、3学年において100%の合格率となり、今年度においても追認は8人のみとなり、2月追認においても全員が合格し、3学年の生徒全員が卒業式を迎えることができた。追認生徒も年々減少しており、追認考査の回数や時期等の見直しが必要であると考え。欠席時数の多い生徒へは、1/7オーバー10単位上、または1/5オーバーが1単位あれば、通知文書を保護者へ送付し、早い段階で欠席数を把握してもらうようにしている。成績不振生徒に対しては、12月の面談に向けて、2学期中間以降、学年部で適宜面談等を行ってもらいつつ、卒業の厳しい生徒については教務部長による面談を特別に行う予</p>
	学習指導	授業規律を確保するとともに、授業改善を推進して学力向上を図る。	授業改善につながる取組(公開・研究授業週間、授業アンケート等)を効果的に実施し、授業改善を通じて学力向上につなげる。学力向上につながる取組(府立高校実力テスト対策など)を他分掌と連携して効果的に実施する。	2 2		
	学校運営	学校運営上、文書類等の作業効率の向上を図る。	各種提出書類等の簡略化を図り、作業効率を上げる。	3		

							定としている。 ・前期中期選抜の実施要項の見直し、定期考査心得マニュアルの作成、時間割変更届け等で作業効率を上げることができるように日々作業の工夫をしていきたい。
--	--	--	--	--	--	--	--

分野	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を目指す。	社会の一員としての自覚を育てるために、定められた時間に登校できるよう毎朝校門にて、あいさつ運動とともに遅刻防止指導を行う。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の校門遅刻の生徒数は、一日平均が8.22人であった(2月22日現在)。目標の10人以下にはなったが、遅刻のチェックを受けずに、2限目以降から登校してくる生徒も少なくない。教務部や学年部と協力して、まずは遅刻の実態を把握し、基本的な生活習慣を身につけさせたい。 ・昨年度より、身だしなみ違反を繰り返す生徒は特別指導の対象とした。身だしなみ違反に対してよりきめ細かに指導していることもあり、身だしなみはかなり改善が見られる。しかし、見つからないように目立たない化粧をしようとする生徒も少なくない。また、声かけをする教員にも偏りがあるので、学校全体で身だしなみ点検ができる場を増やし、すべての教員が声かけしやすい雰囲気をつくる必要もある。 ・今年度の携帯電話の指導件数は97件であった(2月22日現在)。うっかり鳴動させている生徒もいるが、一番多いのは携帯電話を使用してしまうことであった。2月から携帯電話指導強化月間を実施しているが、電源を切って鞆の中にしまわせることが徹底できれば、携帯電話の使用は減少すると予想される。 ・考査中の携帯電話の鳴動や所持については、考査妨害や不正行為の特別指導の対象とすることとした。 ・非行防止教室をNTTドコモに、交通安全教室はスケアードストレイト形式で開催する予定である。 ・本校主催で行う薬物乱用根絶啓発運動も警察と協力して行う予定である。 ・ビットクルーの情報をもとに、大きなネットトラブルになる前に適宜指導を行っている。個人情報の漏洩については声かけができていないので、来年度は学年部と協力して、些細なことについても情報共有する必要がある。 ・いじめに関する調査、いじめ関係長欠調査を実施した。その結果について、いじめ対策委員会を開催し、いじめ状況の共通理解を図った。 ・リーダー会議、文化委員会、体育委員会を適宜開催し、学校祭を計画的・主体的に取り組ませるように指導した。学校祭当日はもちろん、準備や片付け、学校祭を盛り上げるなど様々なところで生徒が活躍することができた。 ・部活動生徒が木津駅前クリーン運動に多く参加するなど、地域との連携を深めた。 ・仮入部期間を設定し新入生全員が部活動を体験できるように実施した。部活動の加入率については、58.5%に留まり、目標の60%には届かなかった。
			登下校時を含め、学校生活全体を通じて、身だしなみが整った状態で過ごすことができるよう統一した指導を行う。	3		
	特別活動	保護者や地域、関係機関と連携し、安心・安全な学校生活の構築を図る。	外部関係機関と連携を密にし、生徒の安全に留意した指導を行う。	3	3	
			いじめの早期発見・早期解決といじめを許さない心の育成指導を行う。	3		
		規律ある集団生活の中で、生き生きとした教育活動を推進する。	生徒会、クラス委員、部活動の校外外での奉仕活動等を通して、地域への連携を深めるとともに他者を思いやる心を育てる。部活動に参加しやすい環境をつくり、一人ひとりが達成感・充実感を得られるようにする。	3	3	

キャリア教育推進部	進路指導	進路希望を実現させる就職指導、進学指導体制を充実させる。	就職希望者に対する指導体制のさらなる充実及び強化を図り、希望者全員の内定を得る。 1年特進エリア特別進学プログラム「守」及び2年「STEP-UPプログラム」、3年「STEP-UPプログラムⅡ」を実施し、三年間を見据えた進学指導体制「守破離」の確立に向けた指導を行う。 進路シラバスを基に系統的な進路学習を実施し、また適切な情報提供を行い、生徒の進路意識をさらに向上させ、希望進路実現に向かう。	3			た。しかし、新入生の加入率は75.0%で、ここ数年の間で最高の加入率であった。
	中高連携	本校の教育活動に興味・関心を持つ生徒に多く受験し入学してもらうために、中学校との連携をより強化する。	中学校訪問や中学校教員対象の説明会の実施、あるいは中学生対象の説明会や専門学科セミナーの実施により中学校との信頼関係を構築し、特に相楽エリアにおいて選ばれた学校を目指す。	3	3	3	・昨年度に引続き学年部と連携し、就職指導のさらなる充実と強化を図ることができた。学校紹介就職内定率49/49 100% ・特別進学指導の手引をもとに、学年団、各教科、他分掌と連携し各学年の特別進学指導を実施することができた。 ・進路シラバスを基に年間を通しての進路LHR等を企画し実施することができた。
	広報活動	本校の特色ある教育活動を、中学校、地域社会、企業、大学へ広報する。	各分掌、教科、学科、部活動と連携して、ホームページを積極的に活用したりリアルタイムな情報発信を行う。	3	3	3	・広報プロジェクトを中心に中学生募集に関する各種取組を実施することができた。 ・4月から1月まで本校の魅力的な教育活動を部として34回HPにて発信することができた。 ・昨年度に引続き計画的に総合的な学習時間の運営を行うことができた。
	普通科教育	普通科生徒の基礎学力育成と学習習慣を確立させる。	1年普通科の総合的な学習の時間において、基礎学力の育成及び学習習慣の確立を目指す。	3	3		
図書部	図書館活動	図書館での活動を通して、生徒の学力・人間力の向上を目指し、社会で通用する能力を身につけさせる。	生徒及び教職員の図書館資料や視聴覚教材の利用を促進する。 生徒の図書・視聴覚委員会の活動に積極的、主体的に取り組ませる。 HPを更新するなど、有効な広報活動を行う。	3	3	3	図書館・視聴覚教室利用は昨年度よりも多くの生徒・先生方に利用してもらった。図書・視聴覚委員の活動も昨年度より積極的に活動できた。HPも順調に更新できた。
保健部	健康・安全	清掃活動の充実を図り、他を思いやる心を育てる。	事務部と連携し、清掃道具の整備と充実に努める。 清掃強化週間を実施する。	3	3	3	・清掃強化週間を実施した。 各種検診はほぼ100%受診させることができた。「ほけんだより」「保健委員会だより」の発行や掲示によって保健活動の充実を図った。 ・学校適応推進会議を開催、SCの活用・支援センターの巡回相談・外部の支援機関と連携し、学習支援、不登校、発達障害を抱える生徒の早期対応に努めた。
		生徒の健康・安全を守るとともに将来に繋がる取組を徹底する。	各種検診の全員受診を目指し、保健活動を充実させる。	3	3		
		要支援生徒に対する支援体制の充実を図り、生徒の着実な成長を目指す。	日常の生徒観察や学校適応推進会議、スクールカウンセラーを活用し、生徒理解に努める。	3	3		
農場部	農場経営	GAP（農業生産工程管理）を基礎においた農場運営を行う。GLOBALGAPの継続認証を行う。	農場管理記録簿を全部門で記入する。 作業の安全を第一とし、そのための整理整頓を実施する。 リスクを共有し対処できるようにする。	3		3	・作業記録を全部門で取り組むことができた。ヒヤリハット事例や改善アンケートを生徒と取り組み作業の安全と改善に取り組めた。GAPの継続認証を得ることができた。 ・ほぼ計画通りの連携は行われているが、行事の精選を測る必要がある。
		学科連携・地域連携・学校間連携をより充実させる。	T.V.F講座・情報企画科連携の内容を充実させる。 大学をはじめとした他校種の学校連携を充実する。	3	3		
				3			
				3			
情報企画部	学科経営	「人間性豊かな職業人の育成」を理念とした諸活動を推進する。	学科・地域・各学校と協働する事業を企画し、生徒の研究活動に活用する。 システム園芸科との学科連携と地域連携をより具体的に実行して研究活動の実績を積み上げ、SPH研究指定校を目指す。	3		3	・課題研究の取り組みにおいて、さまざまな団体や企業と連携した研究活動を行った。学習効果の向上のため、指導方法や内容をより体系化することを課題とする。 ・エシカル消費をテーマとした研究活動や社会人授業を取り入れることで一定の実績を積み上げることができている。SPH研究指定の公募は終了し、それに代わる「地域との共同による高等学校改革推進事業」の活用も考えて、取り組みを深めたい。 ・進学、就職とともに、生徒の希望進路をおおむね達成できた。早期の進路目標設定と難易度に応じた計画的な実力形成が学科としての課題と捉えている。 ・専門学科フェスティバルの企画、運営を行い、参加者からは一定の評価が得られた。生徒への教育効果、中学生や市民への広報効果、運営側の業務負担のバランスを改善し、次年度の計画を考えたい。
		商業科の専門性を生かした進路実現を支援する。	担任と連携してより進路計画を協議し、専門性を生かした進路実現を図る。	3	3		
		専門学科の魅力についてより広く認知されるよう、広報活動の充実を図る。	校内外での説明会や地域に開かれたイベント開催によって、教員と生徒が協力してその魅力が伝わる広報活動を行う。	3	3		

第一学年部	学校生活	授業規律を守り、授業を大切にすることで、基礎学力の定着を図る。とともに、進路実現を見据えた指導をすすめていく。	学習環境を整え、基礎学力の定着を図る。無断での欠席・遅刻・早退を絶対になくすよう指導し、授業を大切に作る姿勢をつくる。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考査前学習会での、落ち着いた学習環境の提供に対して、多くの生徒が考査前の勉強に励んだ。また成績不振が危ぶまれる生徒に対する呼びかけを行った。 ・ ホームルームや学年集会での指導を通して、授業規律については、一定の成果が得られた。 ・ やむなしの欠席・早退・遅刻は連絡や手続きの徹底は図れた。引き続き、授業を大切に作る姿勢をつくっていきたい。 ・ 各担当が積極的に個人面談を実施した。また、必要に応じて家庭への連絡、四者面談を実施、保護者との連携を図れている。 ・ 部活動加入率は当初は約70%であったが、2学期以降、部活動の継続に悩む生徒が出てきた。特に運動部の退部率が高かった。継続している生徒に顧問と連携を図りながら部活動の継続および新たな部員の確保に向けて声かけが必要である。 ・ 文化祭および体育祭などの学校行事において、各クラスで協力して展示作成や競技に取り組むことができ、来年度へつなげる良い活動ができた。 ・ 身だしなみ、言葉遣いや挨拶などマナー面においては、まだまだ課題が残る部分があるので、引き続き社会に出てからのルールを徹底的に指導していききたい。 	
		身だしなみの徹底、挨拶や時間を守ることを推奨し、社会性豊かな集団を育成する。	地域に愛される高校の一員として、身だしなみを整え、相応しい言葉遣い、挨拶ができるように指導する。	2				2
		部活動、学校行事や人権学習に積極的に取り組む姿勢を養い、豊かな人間性を育む。	部活動参加を積極的に推進する。校外学習・文化祭・体育祭等の行事において、主体的計画のもと、協力して取り組ませる。	3				3
			定期的な人権学習のみならず、日常的に入権意識を高める指導を行う。	3				3
第二学年部	学校生活	学習習慣を確立し、基礎学力の定着を図る。	授業を大切に作る環境づくりと、週末課題や補習講座の継続的な開講で、学習習慣と基礎学力の定着を図る。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育推進部との連携を図り、進学希望者へ必要な講座を開講し、継続的に指導をすすめることができた。また、分野別学習会および事前事後指導について内容を協議のうえ進捗することができ、進路学習を深められた。 ・ 研修旅行について、1学期から計画的に事前学習をすすめ、充実した旅行を実施することができた。 ・ 身だしなみを含め、学校生活における生活マナーについて課題の残る部分があり、希望進路実現にむけて継続的に取り組む必要がある。 	
		進路に対する意識を高め、自ら目標を定める。	年3回の分野別学習会および定期的な進路希望調査を実施するとともに、個別に面談を定期的に行い、自ら進路目標を切り開く力を育てる。	3				3
		思いやりの心を育み、健康で社会性豊かな集団の育成を図る。	身だしなみを整え、日頃から正しい言葉遣いを心がけ、落ち着いた気持ちで学校生活を送れるようにする。充実した研修旅行の実現に向け、1学期より事前学習を含めて計画的に指導を行う。	2				3
		3						
第三学年部	学校生活	進路実現と、社会性豊かな資質を身につけさせる。	生徒の希望進路の実現を第1に、保護者と協力して指導する。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育推進部と連携を図り、保護者と協力して、生徒の希望進路の実現に向けて取り組むことができた。 ・ 公募推薦やセンター試験の受験者数が例年に比べてかなり増加し、希望進路に合格できた生徒が多かった。 ・ 就職一次の合格率87%と高く、最終的に就職希望者が全員就職内定を決めることができた。 ・ 生徒指導部と協力して身だしなみ、言葉遣いや挨拶などマナー面においてきちんとできる生徒が増えた。 ・ 文化祭や体育祭などの学校行事、人権学習を通して自他を大切に作る人権の育成を図ることができた。 	
			進路希望に応じた取組や行事に参加させる。	3				
			地域に愛される高校の一員として、身だしなみを整え、相応しい言葉遣い、挨拶ができるように指導する。	3				
			学校行事や日常の清掃活動を通し自他を大切に作る人権感覚を育成する。	3				
事務部	施設設備管理	安全安心な学校作り	施設担当者・技術担当者を中心に施設・設備の点検を実施する。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は、地震、台風等により緊急な点検、修理の必要に迫られた。年度末になり、各課との調整が進み、補修、修繕の目的が立ち、限られた予算ではあるが、有効に活用することができた。 ・ 来年度着工予定の北校舎長寿命化工事については、今後も情報企画科、理科、教務部等と連携し、納得のゆくものにしていきたい。 	
		設備・備品等の改善整備	施設設備の老朽化について長期的修繕計画を策定し、計画的な改修に努める。	3				3
	会計管理	効果的な予算執行と適切な会計事務処理	職員相互のチェック・確認体制の定着化を図る。	3	3			
			グローバルGAPを見据え、効果的に予算を執行、運営する。	3		3		
	省エネ・ゴミ削減	節電対策の推進	デマンド監視装置を活用し、消費電力の節減に努める。	3	3			
	廃棄物量の削減	清掃活動を自己研鑽の中心に位置づけるという短期経営目標を踏ま	3	3				

		え、保健部と連携し、ゴミの分別・節減に努める。				<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内巡回し、技術職員を中心に更衣室や廊下、使用していない教室等の蛍光灯を消す等節電に努めた。それが教職員全体に行き渡るようにしていきたい。 ・清掃活動を自己研鑽の中心に位置づけるという短期経営目標を踏まえ、生徒の大掃除の時間帯を事務室の大掃除の時間に設定し、清掃を実施した。 ・京都府として財源が厳しい状況であることを踏まえ、節電、節水、ペーパーレス等さらに経費削減に取り組んでいきたい。
--	--	-------------------------	--	--	--	--

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
国 語 科	教科指導	学習規律、学習習慣を確立させる。	「国語科3年間の取り組み」を基本に、取り組むべき課題を明示し、提出物の徹底を図る。 ノート作り、プリント内容を工夫し、基礎的な知識の定着を目指す。	2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が期限を守って課題を提出することができた。また、未提出者に対する粘り強い指導を行うことで、課題の提出状況がよくなった。 ・基礎学力定着に向けて、以下の取り組みを行った。①学年統一の漢字テスト（全学年）②漢字テキストの活用（全学年）③学年統一の百人一首テスト（1年）④辞書引き活動⑤小テスト⑥週末課題⑦自主学习プリント（3年）⑧便覧学習（1年） ・各学年担当者間で分析や検討をした上で、府実力テストに向けて過去問題演習を行った。また、普通科発展エリア・特進エリアでは、模擬試験対策にも取り組んだ。 ・漢字検定の受験者、合格者増加に向けて、以下の取り組みを行った。①全クラスへの呼びかけ②問題集の貸出③添削指導④プレテスト（受験者数75名） ・補習においては、各学年の意向を取り入れることで、生徒に必要な講座を用意することができ、生徒も主体的に参加した。2年生で小論文補習を始め、時間をかけて指導することで、小論文を書くために基礎力を身につけることができた。 ・教科会議やそれ以外の担当者間での打合せなどを通して、教材内容や指導方法について交流を図ることができた。引き続き授業実践の交流や意見交換を活発に行い、教科指導力を高めていきたい。 ・3年「総合的な学習の時間」では、テキストを活用し系統的に学習することができた。「連携」関連科目も着実に充実化が図られてきた。それぞれの授業体制を共有化することで、さらなる深化を図っていきたい。
		基礎的な知識の定着を図り、国語力の充実を目指す。	府実力テストや模試に向けた対策指導を行う。 「漢字力」育成に向けた指導を充実させる。 小論文補習や進学補習などの取組を強化する。	3		
		教材の精選及び教材理解の深化、指導内容や方法の共有化を図る。	小教科担当者間で教材研究を行い、板書計画やプリント作成において担当者間の交流を図る。 3年「総合的な学習の時間」で国語力向上に向けた指導内容を充実させるとともに、「連携」関連科目の更なる発展深化を図る。	3	3	
地	教科指導	効果的な学習方法を習得させ、基本	教科書やその他の教材・ノート類を揃えて授業に臨むよう指導を徹底	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書・副教材を授業前に準備できていない生徒

歴 公 民 科		的な知識を確実に定着させる。 学習習慣の確立を促す。	する。 授業等で学習習慣の確立を繰り返し呼びかけ、適切な課題を与える。 地歴公民科目の効果的な学習方法を指導し、学習内容理解の定着を行う。 視聴覚教材（新聞や写真）やICT教材を効果的に利用する。	3 3		3	3	は、まだ少し見られるがかなりは少なくなった。定期的に教科書を持参しているかをチェックするなどの対策が功を奏した。 ・考査前の意識づけ、勉強会参加への促しなどをして、生徒の向学心を高めるとともに成績不振者へのフォローを行った。 ・授業に関わるDVDや映像を視聴させるなど工夫を行った。 ・夏期の課題として、税の作文や時事問題に関わるレポートを課しており、連続で入選を果たした。また、北方領土に関する作文にも新たに応募、入選を果たした。 ・現代社会の授業を通じて、消費者教育を契約理論からのアプローチを試みた。		
		歴史的、社会的な事象に興味・関心を持たせ、自分の意見を持たせる。 消費者教育に取り組む。	生徒に社会的な事象に対する自分の考えを持たせるために、レポート課題や発表活動を取り入れた指導を実施する。 消費者としての自覚を持たせる。	3 3		3 3				
	数 学 科	教科指導 基礎学力の向上を図る。	授業中は、机上に教科書・ノート・問題集を置き、不要物を片付けさせ、身だしなみの点検指導を行うことで、気持ちを授業に向けさせる。重要事項をノートにまとめさせ、問題集・プリントを活用し、問題演習に前向きに取り組むよう指導を行う。	3 3		3			3	・今年度は1年生を中心に比較的授業に向かう姿勢は良かった。教科書だけでなく、単元によってはプリント授業を行うことで、より円滑に学習を進めることができた。 ・府実力テストの結果をみると、知識の定着には至っていないと感じさせられる。次年度は、学習内容をいかに定着させられるかが課題である。
		学習習慣の確立と、進学に向けた指導を充実させる。	課題を与え、小テストを実施することで、家庭学習習慣の確立を図る。進路実現に向けて、補習や補講を充実させる。	2 3		2				
理 科	教科指導 授業を大切にする教育環境をつくり、基礎・基本を定着させる。	授業開始時に、机上の整理や身だしなみ点検を行うことで授業の準備をさせる。 各科目とも平常点を20～30%に設定することで、ノートをとったり、提出物を出すように指導する。	3 3		3	3	・今年度は授業規律面では大きな乱れはなく、小テストや宿題を課し、平常点として評価することで、取り組むべき内容を明確にした。 ・各科目でICTを積極的に活用し、教材提示の工夫やアクティブ・ラーニングの要素を取り入れて授業の工夫等を行った。 ・今年度いくつかの実験を新たに取り入れることができたが、教員間の共有は当初目標より不十分な面があった。 ・北校舎超寿命化工事に向けて、新しい理科教室の検討や古い資料や物品の整理を行った。			
		理科教育の充実を図る。	教科会で予備実験を行って、新しい実験を試したり、教員間で共有する。また、予備実験の時間を短縮することでより多くの実験を実施できるようにする。 アクティブ・ラーニングの要素を取り入れて、学び合いにより科学的に探求する姿勢を養う。	2 3				2 3		
	保 健 体 育 科	豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。 健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。 規律ある集団行動の実践と、協調性を持った生徒を育成する。	安全に留意しながら、体力の向上を目指すとともに運動の特性に応じた楽しさを感じさせる。 新体力テストのフィードバックを行い、主体性を持たせる指導を行う。 毎時間、講座全体集合を行い、健康や安全に留意して授業が行えるように努める。	3 3 3				3 3 3		
芸 術 科	教科指導 基本的な学習習慣の確立	授業規律を明確にして指導し、授業態度に問題ある生徒に対して個別に注意を促す。特に理由のない遅刻・欠席や取り組み不足には強く指導する。 課題や作品の提出や発表の期限及び各種届を厳守させる。	3 3		3	3	・年度当初のガイダンスにおいて、授業の進め方など生徒に明確にして、徹底させた。そして、できていない生徒に対しては、個別に指導した。 遅刻や欠席に対しても同様に指導した。 ・生徒が興味関心が強く持てるような教材を精選し、実習に取り組みせるようにした。			
		学習活動の充実	意欲的に実習に取り組み、生涯芸術が愛好できるよう、教材を精選し学習活動を充実させる。	3				3		
英 語 科	教科指導 様々な学習活動を通して生徒の英語学習へのモチベーションを高め、積極的な発話につなげる。	検定試験の受験、スピーチコンテストへの参加等、様々な取り組みを通して、生徒の英語学習へのモチベーションを高める。また普通の授業での教授法や活動を工夫し、積極的に英語でコミュニケーションをとろうとする態度を育成する。	3		3	3	・検定試験については、年間で、英検73名、全商英検61名受験し、合格率は英検20%(第3回については1次合格)、全商英検39%、GTEC受験者は17名であった。全商スピーチコンテストには6名出場した。事前にそれぞれ個別に指導を行ったが、当日欠席し、受験、出場できないものもいたので申込み時に指導を徹底する必要がある。また、夏休みに1名がオーストラリアに短期留学し、年々、留学に興味を示す生徒が増えてき			
		多様な進路希望に対応できる語彙力と文法知識の定着と向上を図る。	定期的な課題や、授業内での単語テスト等を行うことで語彙力と文法知識の定着を図る。また、計画的で効果的な補習を実施し、基礎学力	3				3		

			の向上を図るとともに、発展的な学力の素地を養う。				ている。 ・授業での小テストや週末や長期休業中の課題を通して、語彙力強化に努めた。進学補習は例年より日数も参加人数も多く、各学年で効果的に実施できた。ただし、今後は学校全体の方向性や指導体制を含め、教科の枠を超えて検討する必要があると思われる。 ・大学入学共通テストについて、最新情報を集め、3年間を見越した新しい指導方法を考えていく必要がある。
		特進エリア始動に際して、設置目標達成に向けた教科指導体制を模索する。	特進エリア始動と、来たる大学入学共通テスト導入を視野に入れ、時代に応じた英語指導体制と、難関大学を目指す進路指導体制を模索する。	2	2		
家庭科	教科指導	学習規律を確保し、学習習慣を定着させる。	始業時に学習に向かう姿勢を整えさせる。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・始業時に声掛けをするが、指示が行き届かない場合もあり、プリントを配るなど落ち着かせるようしている。 ・プリントファイルは、毎時間提出させ、しっかりとチェックをすることで、提出状況を把握することができた。 ・授業で学習したことを家庭でどのように生かしたかレポートを書かせ確認した。
		自分の生活を見つめ、改善すべき点を把握させる。	定期的にノートやレポートを提出させ点検を行う。	3	3		
		将来に生かせる知識、技術を習得させる。	各領域において、問題意識を持たせながら授業を展開し、知識・技能を生かせる場面を提示する。	3	3		
情報科	教科指導	スタンダードエリア連携コースの学習内容の充実を通して普通科の活性化を図る。	PowerPointの効果的な活用技能を指導する。プレゼンテーション技法(身だしなみ指導を含む)の指導を行い、発表を実施する。他教科の連携コース担当教員との連携を図る。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション技法では、PCの操作については1年次から身につけた技能を連携コースの学習において活用できており、発表は回を重ねるごとに上達している。 ・授業規律の確保については一定の成果が見られた。コンピュータ教室の環境保全のため、適正に利用されるようさらなる規律の確保に努める。
		授業規律の確保を行い、学力向上を図る。	実習時、上履きの整理整頓の点検を行う。「授業を大切にしよう」の声かけを行うとともに、PC機器の適切な取扱について指導する。提出物の期限内提出の指導を行う。	3	3		
				3	3		
農業科	教科指導	地域・大学等と連携した取組を行い応用力の向上を図る。	木津北地区の整備と保全活動に取り組む。大学や専門機関と連携をし学習、実験を実施する。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得取り組みの減少が懸念されたが、2学期後半以降取り組む生徒が増え例年並みとなった。農業技術検定の合格率70%達成できた。
		資格取得の取組を活かし学力向上を図る。	農業技術検定、危険物取扱者資格、情報処理検定を複数取得させる。	2	2		
商業科	教科指導	規範意識の育成のため、授業規律を重んじ、主体的な学習姿勢を身につけさせる。	授業前後の挨拶の規律確保に加えて、あいさつ、身だしなみ、清掃の積極的な指導を重点とし、ビジネスを学ぶ生徒として模範となる姿勢を身につけさせる。各科目における生徒の習熟度を教科内で共有し、全体でフォローを行う。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確保について定着できている。 ・教科内における生徒情報共有ができています。担任と連携しフォローに努める。 ・検定試験の学習指導について、教科担当者による計画的な指導と日常的な検定取得への動機づけにより、ほとんどの生徒が前向きな姿勢で学習に取り組み、合格率もさることながら、学習に対する望ましい態度を身につけさせることができた。
		商業科の専門性を生かした進路実現のため、特に検定科目について重点的に指導を行う。	検定取得に対して、進路実現との関連をふまえた動機付けを行い、習熟に応じた適切な指導を行う。	3	3		
連携科	教科指導	地域連携や高大連携を通して、幅広い知識や経験を会得し、活用できる力を育成する。	地域や大学と連携し、フィールドワークや出前授業の実施を行う。	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・2年「連携基礎」3年「連携探求」の授業において、木津川市役所、各NPO法人、京都教育大学、佛教大学などと連携し、出前授業やフィールドワークを実施した。 ・3年「課題研究」では、4つのゼミに分かれ、地域のNPO法人や介護施設、市役所、保育所などと連携し、地域を巻き込んだ研究活動を行った。 ・3年生には今年度初めて文章検定準2級を受験させたが、合格率は46%と目標を下回った。 ・週1回教科会の時間を本時間割の中に設定していただき、ほぼ毎週授業の打ち合わせや課題研究の進捗状況の共有を行うことができた。
			地域や大学と連携を密に図りながら、継続的・発展的なテーマで課題研究の指導を行う。	3			
		推薦・AO入試に必要な「伝える力」を育成する。	文章検定合格率70%以上を目指し、適切な指導を行う。	2			
			プレゼンテーション技法(身だしなみ、挨拶の指導を含む)の指導を行い、各学期に1回プレゼンテーションの発表を行う。	4	3		
	担当教員間の連携を図る。	教科会の定期的な開催を通して、課題研究の進捗状況について教科内で共有し、全体でフォローを行う。	4	4			

<p>学校関係者評価委員会による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○中期選抜の志願者数の減少は残念ではあるが、これは近隣の中学校から評価を受けていると考えることができる。つまり木津高校にふさわしいと考えられる生徒を中学校側も理解して送っていただいているように思われる。学校が上がっていく、ひとつのステップではないか。 ○学校の雰囲気が年々良くなってきている。生徒の登下校の様子から、生徒が落ち着いて学習している姿、先生が一生懸命教えている姿が容易に想像できる。 ○今年度も卒業式に参加させていただいた。通算17回目の参加であるが、「きちんとしていることがスタンダード」となった、すばらしい卒業式であった。生徒一人一人を大切に送り出そうとする学校の気持ちが伝わってきた。生徒の雰囲気も非常に良く、生徒が学校に対する誇りを持ち始めた証である。 ○学校経営計画の、それぞれの評価が「3」「2」であるのは先生方の評価の基準・求めることが上がってきた証拠である ○毎月15日の木津駅前クリーン活動は、毎回200名ほどの生徒が参加しており、定着したと感じる。先生の参加も多い。生徒の表情も生き生きとしている。先生が生徒を管理して活動しているのではなく、先生と生徒と一緒に、生徒も自主的に活動している様子は大変良い。生徒と先生の信頼関係を感じる。 ○生徒が今後ますます、木津高校生が誇りを持てる取組を展開して欲しい。ABCマーケット等、地域と連携した取組が継続して行われている。地域と繋がる取組を今後も大切にしたい。
------------------------	---

<p>次年度のに向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○短期の経営計画である「原留・中退・転学等を限りなく0に近づける指導の徹底」については、全教職が粘り強く生徒と向き合い指導したものの結果として「0」ではなかった。次年度以降も引き続き粘り強く指導にあたり「面倒見のいい学校」を目指していく。 ○規律ある高校生活を過ごすことのできる木津高校は保護者・生徒にとって、もはや当たり前のことである。今後はさらに授業改善に取り組み、生徒の望む進路指導を充実させていく。 ○本校の教育活動を内部にも外部にも、正しく、広く理解してもらうための広報活動について現状に満足せず、さらに魅力ある広報活動を展開し、中学生にとって木津高校が、「第一希望」として選ばれるように魅力ある学校づくりを進めていく。 ○地域との連携については、地域貢献から「地域参画」にシフトを変え、地域の小・中学校や地域自治会と連携し、地域の声を教育活動に反映させる取組を行う。 ○身だしなみ指導を強化し、正しい制服の着こなしをすることが進路決定に結びつくことを認識させる指導を行う。帰属意識が少しずつ定着されてきた今を大切に、部活動や学校行事等で「つながり」の意識向上を目指す。
-----------------------	--